

城外実戦体験

田 辺 康 市 さん

昭和19年11月初旬、岡山第10連隊に入隊し、中国の高平にある壘^{るい}第1477部隊独立歩兵第246大隊第三中隊に入隊した。

約2か月ぐらいの過酷な現地教育を受けて、初めて討伐⁽¹⁾と言う名目で、情報に基づい

て敵地区とされる地域の集落に、

糧秣⁽²⁾収集も兼ねて中隊長を先頭

に出発した。自分は軽機関銃⁽³⁾を持

って射手として参加する。1時間

ぐらい山から谷へと歩いて行く

が、幅5メートルほどの1本の道

路が何キロも遥^{はる}か彼方の先まで

ズーと見渡せる場所に来たとき、



日本ではこんな風景は全く見られない、中国は大きな国だなと感じた。と同時にこの壮

大な距離を歩いて行けるのだろうか、不安な気持ちになった。でも戦友も皆一緒に行

くんだから自分も行かなければ、と隊列に引きずられるように顎を前に出しながらつい

て行く。暫^{しばら}く行くと上官が「あッ、狼煙⁽⁴⁾が上がっているぞ気を付けろよッ。」と指さ

す方向を見ると、1キロほど離れた右横の小山の頂上あたりから不気味な白煙が信号用

として波打つような形で上っている。と左側の小山の頂上からもそれに答えるかのよう

に狼煙⁽⁵⁾が上がった。我々の行動を察しての作戦信号なのか。と思った瞬間、両側の山の

中腹あたりからパンパンと銃声が聞こえ攻撃してきた。挟み撃ちだ。部隊は直ちに応戦

した。自分は上官の「軽機前エー」との命令で10メートルほどの前方の凹地に走り込

み、上官の指示に従って激射した。初めての戦闘だ。機関銃の連射は体中にももの凄く響

く。興奮して無我夢中だ。相手を殺さなければ自分が殺される。これが戦争だ。機関銃

を発射している場所は敵にはよく判るので集中的に狙われやすい。当然自分の近辺には無数の弾が飛んで来る。とその時、右耳の辺りが「ビシッ」と言う音がして、顔面の右半分が何かで殴られ麻痺した状態になった。当然撃たれたと思い「やられたッ」と言って手で右の顔を押さえて倒れた。傍にいた上官が「何処をやられたッ」と言って抱き起し、顔を押さえている手を取って見て「馬鹿野郎」と力いっぱいぶん殴られた。「起きて早く撃てッ、この馬鹿者がッ。」「ハイッ」と答えて飛び起きて射撃を始めた(至近弾

を受けると弾風の圧力で鼓膜が一時的に損傷し、頭半分に麻痺感が出る(ことがある)。間もなく敵の銃声は止んだ。時々銃声はするが弾は来なくなった。先発隊が銃声に気づき両側面から攻撃を仕掛けたらしい(先発隊とは斥候兵として、討伐に行く



目的地に秘かに先行して敵の様子を探る兵隊)「撃ち方やめ」、「前進」との号令で先発隊と合流して敵の後を追ったが、もう攻撃してくる気配は無いので追跡を止め帰ることにした。ところが帰りだすと、何処にかくれていたのか集落や物陰からパンパンと言う銃声とラッパやドラ、太鼓の鳴り物入りで「ドンドン、パイパイ、ジャンジャン、パンパン」と、何百人が追ってくるのか想像がつかないほど強烈な音響を出して追ってくる。自分たちは初めての事なので何が何だかわからない。もう上官の側を離れず、命令に従って行動する以外は何もない。上官の命令で中隊は2分隊に別れ、1分隊は追ってくる敵を迎え撃ち、1分隊は100メートルほど後退して立ち止まり、援護射撃をしながら後方の味方を後退さすという作戦を繰り返し行って、ようやく安全な地域まで帰ってきた。そしてある集落で休憩した。何人が負傷兵がいたようだ。衛生兵が忙しそうに走り回っていた。自分はのどが渴いてカラカラだ。水筒の水も無いので水を貰いに民家

に入って老夫婦が居たので中国語で「リヤンスイ、シンジョー（水をください）。」と言ってみた。通じたのか笑顔でうなずいて部屋の隅にある大きな水甕を指差した。「シエーシエー（ありがとう）。」と言って、そこにあった柄杓で甕の水を汲み上げると白く濁った水の中をポーフラが2、3匹浮き沈みしている。が、そんな事を気にしている場合では無い。早く水が飲みたいのでポーフラが底に沈んだ時を見計らって、上の方だけ2、3口飲んだ。またこの付近の水は石灰が多く含まれていて生水を飲むとすぐ下痢をする。それを覚悟で飲むのだ。沸かして飲む時間は無いのだ。古兵たちはその間に牛や豚、鶏とか穀物等糧秣^{りょうまつ}収集してきた。そして隊列を組んで中隊へと帰路につく。途中、案の定自分は下腹がキリキリと下痢の症状が始まった。そんな時は帰る道順の先頭より10メートルほど先へ走って行き、道路よりちょっと離れた田んぼや物陰で便をして部隊が来たら列に入って付いて行く。何人もの兵隊が同じような行動をとっている。こうした討伐と言うゲリラ⁽¹¹⁾的戦略で、敵を攻撃したり戦利品⁽¹²⁾として生活物資等を度々調達した。

-
- 1 討伐...軍隊を送り、抵抗するものを討ち滅ぼすこと。
 - 2 糧秣...軍隊での兵と馬の糧食
 - 3 軽機関銃（軽機）...一人で持ち運び操作できる機関銃。
 - 4 上官...上級の官職。また、その人。
 - 5 狼煙...急ぎの時の合図に、薪を焚き、または筒に火薬を込めて上げる煙。
 - 6 至近弾...直撃はしなかったが、爆風や破片などで何らかの被害が及ぶ可能性のある範囲内に落ちた弾のこと。
 - 7 斥候兵...敵状・地形等の状況を偵察・捜索させるため、部隊から派遣する少数の兵士。
 - 8 援護射撃...敵の攻撃から見方を守るために、側面や後方から射撃を行うこと。
 - 9 衛生兵...軍隊において、医療や衛生管理に関する業務を行う兵士。
 - 10 ポーフラ...蚊の幼虫。水中に住み、体は短い棒状で、くねくねと運動し浮き沈みする。
 - 11 ゲリラ...小部隊による奇襲などで敵を混乱させる戦法。
 - 12 戦利品...戦争で、敵から奪い取った物品。